



#### 【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・食育人材バンク派遣事業の派遣回数が92回、講師登録が77個人・団体に増加し、県民に広く浸透してきている。また、派遣の際の食事マナーについての活動も96.7%と定着してきており、食のマナーを学ぶ機会の増加につながっている。
②	・栄養教諭や学校栄養職員、担任等が授業や給食時間等の教育活動全体で食育指導を行った。保護者にもPTA等を利用し、朝食摂取の必要性やバランスの良い食事について講話を行った結果、「食」に関心を持つ児童生徒が増え、親子料理教室等の参加者が増加した。
③	・地産地消の推進、生産者と消費者の交流促進については、第2期大分県食育推進計画の目標値を達成しており、食を通じた地域づくりの推進が図られている。

#### 【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(26年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	大分の食育推進事業	23,366	A	継続・見直し	76
	青・壮年期食育推進事業	11,144	A	継続・見直し	77
③	地産地消運動活性化推進事業	13,813	A	継続・見直し	134

#### 【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

○平成26年度第1回大分県食育推進会議 (H26.7)

・食育については学校だけでは進まない。みんなが一丸となって子育てに係る必要がある。朝ごはんは栄養補給だけではなく親の思いを子どもに伝えることだし、弁当の日のように自分が作り手になることも大事だ。  
・食育はいろんなことを網羅しているが、何か一つテーマを作って統一的なマネジメントで何かを作っていくというそういう覚悟を決めて施策を行ってほしい。

○平成26年「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会第3回安心部会 (H26.12)

・県産品を食べて農林水産業を支えるという視点が必要。

○平成26年「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会第4回安心部会 (H27.1)

・県内飲食店と連携し給食メニューを提供する週間等を実施すると、シンプルだけどおいしいだとか、栄養バランスだとか勉強になるのではないか。

#### 【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の有益な人材を活用するため、県下で食育活動を実践している食育活動者の掘り起こしをさらに進め、食育人材バンクの講師数の増加をはかる。また、人材バンクの活用により県内全体に食育活動を根付かせ、食育活動を広めていく。</li> <li>・生活スタイルの大きく変化する高校卒業前の生徒や大学生また働き盛りの世代に対し、自炊応援講座の開催や「弁当の日」の取組、社員食堂をツールとした事業を実施し、青・壮年期への対策を行うことで、ライフステージに応じた切れ目のない食育を推進していく。</li> <li>・11月19日を「おおいた食(ごはん)の日」、その日を含む週を「おおいた食育ウィーク」とし、その期間中に関連行事を実施し、学校、家庭、地域を巻き込んだ取組を実施する。</li> <li>・県内産物を利用したヘルシー弁当、うま塩弁当の取組を進め、健康長寿日本一を目指すとともに、農林水産物の地域内利用を促進する。</li> </ul>